

わ か ば

2019. 1. 19
第18-36号
文責 校長 信國 寿敏

ホームページ <http://www.shokookai.org/gakkou.htm> 毎週火曜日更新

重点目標 一人一人が輝く教育 ～期待登校・満足下校～

お忙しい中、ご参加いただき、ありがとうございます。・・・入園、入学説明会及び、参観(1/12)

本年度も残り二ヵ月半ほどになってきました。4月からは、新しい園児や一年生を迎えて、スタートします。

1月12日に、入園説明会、入学説明会を開催したところ、多くの希望される保護者、お子様が来校いただき、教育ニーズの高さをあらためて感じています。説明会後は、幼稚部や1年生の授業の様子を参観していただきました。

なお、入学試験日は、2月6日(水)、入園試験日は、2月15日(金)、いずれも会場は「商工会事務局」となっています。



参観される希望保護者(1年生教室)

「今年の抱負」の紹介・・・小学部6年生(6-1 池田 咲也子さん、6-2 湯浅 紅さん)

小学部代表2名の「今年の抱負」をご紹介します。次号は、中・高等部代表です。

私の今年の目標は、OOP(オリピック デイベロップメント プログラム)というサッカーのプログラムに入ることです。去年は入らなかったのですが、私は毎日、練習をしています。時間をかけて、努力をすれば、今年には必ず入れると思います。OOPに入ったら、いろいろなキャンプやトーナメントに参加できて、良い経験になると思います。それに、OOPに参加したら、どういう選手がいるかが分かり、どういう練習をすれば良いかも分かります。私は、これからも練習して、うまくなり、OOPに入りしたいと思います。



6年1組
池田 咲也子



池田さん(左)、湯浅さん(右)

私の今年の抱負を述べたいと思います。今年の抱負は二つあります。まず一つ目は、少しでも多くの物を寄付することです。世界中、また、ここアメリカでも、十分な食べ物を食べる事が出来ない人がたくさんいます。フードバンクがあるので、そこに寄付したいです。そして、食べ物だけでなく、服や本なども、一人でも多くの人に、配る活動に参加したいと思います。二つ目は、日本に住んでいる、または、日本を訪れる外国人たちを助けたいです。日本語を英語に翻訳した看板をいろいろな所に、設置するためには、何ができるか考え、行動を起こしたいと思います。この二つの抱負を実現させるためにも、人との交流を深め、たくさん情報を集めたいと思います。



6年2組
湯浅 紅



【2年生の作文】「いったい、バナナなめくじってなんだ！」と思ってネットを開くと、こんなにでっかいなめくじがいることに、びっくり仰天です。友だちとワクワクしながら探した雰囲気がよく伝わりました。また、美味しいからピザを4枚も食べられるのでしょうか。友だちと一緒にゲーム三昧の一日となりましたね。来月で閉店でしょうか、チャンスはあと一か月、「急がねば!!」

【5年生の作文】一曲一曲への思いや考えが簡潔に書かれていていいですね。特に、悪戦苦闘してアメリカ国歌「星条旗」を歌った頑張りは賞賛ものです。全体のまとめとして、その日が最後の登校となる仲良しの友を想う文章は、心にじ〜んと来るものがあり、とっても気持ち良い友達関係があったんだなと思いました。とっても素晴らしい学芸会に向き合う態度と心掛けだと感心しました。



【六年生】

「坊ちゃん」を読んで

安田 美結

私は、夏目漱石の「坊ちゃん」を読んで、坊ちゃんのまっすぐな性格に感動しました。坊ちゃんは、自分の思いや正義を貫こうとします。しかし、そのやり方は人を巻き込んだり、悪いやり方ではありませんが、そのせいで、他人と対立したりします。坊ちゃんと対立しているのは赤シャツです。赤シャツは坊ちゃんの給料を上げると言い、自分の味方にしようと思いました。坊ちゃんはそれでもまっすぐに、自分の思いを通した姿が、かっこいいと思いました。

明治時代、坊ちゃんは東京から愛媛の松山中学校に赴任し数学の教師になりました。しかし、同じ学校の教師たちと対立してしまいます。東京と愛媛では文化が全く違うので、その事と坊ちゃんの幼いころからの無鉄砲な性格からの対立でした。坊ちゃんは損をしながらも、対立しているじょうきょうにたえ続けました。

私の好きな登場人物は坊ちゃんの下女の「清」です。清は両親や、兄と不仲な坊ちゃんを育てた人です。坊ちゃんのやんちゃな所から優しい所まで全てを愛しています。清のおかげで坊ちゃんは、理不尽な学校の環境でもたえていけたのだと思います。

「きのう着いた。つまらん所だ。十五畳の座敷に寝ている。宿屋に五円やった。かみさんが頭を板の間へすりつけた。夕べは寝られなかった。」

私はこれを見て現代でも、おこりうる事だと思いました。これは清へ書いた手紙の一部ですが、坊ちゃんが五円を宿屋へはらうと、坊ちゃんへの対応がガラッと変わったのです。今でもお金持ちの客が来ると少しでも態度が変わる事はあると思います。坊ちゃんは狂言のように身近な事でもあるのだと感じます。

清と坊ちゃんは血が繋がっていません。もちろん坊ちゃんは初め、清の愛を感じませんでした。しかし最後、坊ちゃんが東京に帰った時は、「おれが東京へ着いて下宿も行かず、革靴を提げたまま、「清や帰ったよ」と飛び込んだら、「あら坊ちゃん、よくまあ、坊ちゃん、よくまあ、早く帰って来てくださった」と涙をぼたぼたと落とした。おれも余り嬉しかったから、「もう田舎へは行かない。東京で清とうちで待つんだ」と言った。東京へ行く時は、坊ちゃんは、「おれは泣かなかった。」と言っていました。松山で清の「愛」を知ったのです。

「坊ちゃん」には、「正義感」「世間への不満」そして「愛」などと夏目漱石の想いがつまっていると感じました。私は、「坊ちゃん」を読んで、曲がったことはしない事、愛してくれている家族への感謝を忘れてはいけない事を学びました。



明治時代の文豪、夏目漱石の代表的な作品「坊ちゃん」は、中学1年生の学習を広げる資料として教科書にも載っている良質な作品です。補習授業校である本校では、社会科の歴史学習がないので、明治時代の時代背景などを理解しながら読み進めるのは、なかなか難しかったと思います。

例えば、「下女」「宿屋」「下宿」「五円」などの言葉や語彙、意味は理解しにくいと思いますが、美結さんは相当読書好きらしく、読みながらその時代や情景を調べたり、イメージできたりしているように感じます。読書を通して人生観を抱いているようで、実に感心します。

今回は、第39回海外子女文芸コンクールの「俳句の部」をご紹介します。

※海外子女教育11No549からpdf転写



文部科学大臣賞

街中が真っ赤に染まるトマト祭り

マドリッド補習授業校 (スペイン)

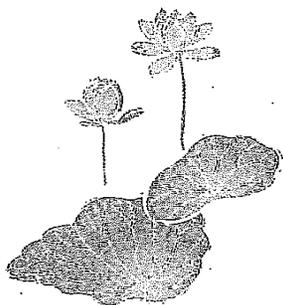
中二 喜多 桃子

海外子女教育振興財団会長賞

湖のようせいの様はすの花

ハノイ日本人学校 (ベトナム)

小五 牧野 汐音



日本放送協会賞

スコールだ近づいてくる雨の壁

パナマ日本人学校 (パナマ)

中一 山之内 大雅

読売新聞社賞

朝焼けに黄金光るエルドラド

ボゴタ日本人学校 (コロンビア)

小五 遠藤 優剛

JFE21世紀財団賞

ロンドンが消え去って行くきりの中

ロンドン日本人学校 (イギリス)

小五 伊藤 健太

東京海上日動火災保険賞

光る汗ナイルの風がふきとばす

カイロ日本人学校 (エジプト)

中一 崖 遥音

日販アイ・ピー・エス賞

日本とは違う言葉でセミは鳴き

北京日本人学校 (中国)

中三 能代 大世

日本児童教育振興財団賞

くびすじにたたかいたのあと

ゆきがっせん

ベルリン中央学園補習授業校 (ドイツ)

小六 和田 美歌

クラーク記念国際高等学校賞

ふわふわのしろいじゅうたん

はつゆきだ

ロサンゼルス補習授業校 (アメリカ)

小五 ヒューズ 玲奈

